

# 国語 (近代以降の文章)

時間：1時間

2020年度 一般入学試験 (前期)

## 選択科目

### 試験内容

□ 次の文章を読んで、後の設問(問1～問7)に答えなさい。解答はすべて解答欄に記入しなさい。

「事実」は現実を隠す」といったのはオルテガである。

たしかに、地球は丸いという「現実」を人がなかなか納得しようとしなかったのは、目の前に平らな地面という「事実」があったからだといえなくもないだろう。

もちろん「事実」がなければ「現実」をとらえようもないが、□Ⅰ「事実」は「現実」をかくしがちだと承知しておくことも無駄ではあるまい、と思う。

たといは紙幣を、ただの紙ではないか、といってみても「現実」をとらえたことにはならないだろう。しかし、「観念を排して事実だけを見る」なら、たしかに紙幣は「ただの紙」にはちがいない。やぶけば簡単にやぶけるし、火をつければ、ほかの多くの紙と同じようにやすやすと燃えつきる。

だからといって「ただの紙」をありがたがっている私たちが欺瞞(ごまか)におちいつているとはいえないだろう。

□Ⅱ「目で見たものしか信じない」という事実主義者でも、紙幣の価値をささえる観念を全的に否定はできないにちがいない。

しかしまあ、紙幣はわかりがいい。使えば得をするというような実質の支えがある。だが、さらに複雑な世の中諸事諸現象については、どうだろう。紙幣を「ただの紙ではないか」というがごとき、滑稽(こっけい)なきめつけをわれわれはしていないだろうか？ 観念を通さなければ実体をとらえられないものを、その「事実」のもつムードだけで、とらえたとらえていることはないかという思いがあるのだ。

たとえば石油が不足しはじめる。店から商品が消えていく。□Ⅲ「終末観」のようなものが、さまざまなメディアを媒介してテンパンする。そのムード的な筋道はわかりすぎるくらいわかるが、そんな「終末観」とやらがどれほど「現実」をとらえているかという疑いを消し去れないのである。

鼠(ねずみ)は船の遭難を予知するという。詩人も時代の危機を他人より早く予感するという。しかし、現在終末観を口にすることが、はたして詩人の名譽といえるだろうか？ 表通りの米屋の若い衆も、同じことを口にしているのである。

メディアの発達のせいかどうか知らないが、だれも彼もが自分のアンテナをみがきたて、時代が悪い方向へ動くか、多少はよい方へ動くかと、占いに類する予想を競っているかのように思える。これは不健康なことではあるまいか。

私のアンテナの針がどっちに傾こうと「現実」は、それとはなんの関係もなく動いているのではないのか。□Ⅳ「現実」は、感覚を鋭くさせているという程度のアンテナでは一向にとらえられないのではないだろうか。「事実」はそれほど単純ではなくったのではないか。

□Ⅳ「目で見たもの」「感じたもの」で「現実」をとらえることができたのかもしれない。「王様は裸だ」

という「現実」をとらえるのには「素朴な目と勇氣」があればよかったのかもしれない。しかし、いま「王様は裸だ」といっているのは、ソッチョクな目や勇氣などではなく、「事実」を多くの視点から分析し感知しようとする知力と体験なのではないだろうか。□Ⅴ「セン」として「素朴な目と勇氣」の持ち主が、わめきたてれば注目をあびるにしても、そうした人種に実質的な力はないという思いがある。

それにもかかわらず、□Ⅴ「事実」に対する感覚的な反応が偏重されるのか。

ひとつには、われわれ凡人にとつて、複雑な要因で生起する「事実」の「現実」をとらえることは至難であるということからきているだろう。弾圧者がよき心をもち、前近代が超近代をささえ、悪魔が善を生み、エゴが正義をささえ、動物生態学がすべてを説明するかと思うと、精神分析学者が失地をタツカイせんとするといったぐあいでも、とてもつき合つてはられない。それならいっそ「自分の感覚だけを信じよう」と考えても無理はないのかもしれない。

そこへもつてきて、目に見えぬものをとらえるさまざまな観念体系の衰弱ということがあつて、いかに分析的になろうとしても、分析や解釈では、活き活きとした「現実」をとらえることができなくなつてきているという事情がある。戦後民主主義という「近代主義的な」観念に対するクソメツが、いわば観念的なものへのアレルギーを生んでいて、「情念」「感性」を偏重する風潮が行きわたつていて、

で、「時代」を分析的にとらえるというような姿勢は、いかにもうさんくさく、感覚的にとらえる方が、より正確であり、より「大人」であるというような気分が濃い。観念的な時代分析など、「主婦の口にする終末観」ほどのリアリティもないではないか、というように、いかに本当らしく効果的に響いたりするのである。

しかし、そうだろうか、と思う。

いや、かくいう私も同断で、「なんとなく時代が悪くなつていくような気がする」というような「気分」を根拠にしてよくものをいってしまうのである。

だが、そうした「アンテナ」にはたして「現実」をとらえる力があるだろうか？ いや「現実」を漠然と感知することはできるにしても、その「現実」に方向をあたえ「現実」を変えていく力はないのではないのか。

「終末感覚」は抱けても、その終末意識の実態を分析的にとらえ、危機があるとすれば、その危機をいかにして克服するかというような能動的な方向づけをする力は「感覚」にはないのではないのか。それどころか、この種の「感覚」偏重は、いかにその感覚の感知するところが正しくとも、社会的デマゴギーの好餌になりやすいのではないのか。もう一度われわれは観念の力を真面目に見直すべきではないのか、というような反省があるのである。

紙幣の「現実」をとらえるためには「ただの紙」を見てしまう素朴な目だけではなく、フィクショナルな背景を認めなければならぬように、文明の生んださまざまなフィクショナルなものを「素朴な目」で見れば欺瞞だとわめてみるだけでは、いまの「現実」は一向にとらえられないのではないのか、という思いが(当り前のことをなをくどくどと思われ方もあるかもしれないが)、私の心を当分しばしば横切るのである。

(山田太一 『昭和を生きて来た』による。)

注1 オルテガ ― ホセ・オルテガ・イ・ガセットのこと。スペインの哲学者。著書に『ドン・キホーテをめぐる思索』『天衆の反逆』など。

注2 こたく ― 御託言の略。自分勝手なことを、もったいぶってやるといふこと。儲かっていること。儲かっていること。また、その言葉。

注3 デマゴギー ― 相手を卑しめ、悪評を招くように流す虚偽の情報。デマ。

問一 傍線(a)「ドンパン」、(b)「ソツチョコク」、(c)「イゼン」、(d)「ダツカイ」、(e)「ゲンメツ」を漢字に直しなさい。

問二 空欄①～⑤に入る最も適当な語句を次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。(番号は重複できなさい)。

1. すると 2. どうして 3. いくら 4. とかく 5. かつては

問三 次のア～オの文の傍線ア「ことき」、イ「だ」、ウ「よう」、エ「らしく」、オ「だけ」の文法的意味を次の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。(番号は重複できなさい)。

ア、「ただの紙ではないか」というが「ことき」。

イ、「王様は裸だ」という。

ウ、「自分の感覚だけを信じよ!」と

エ、いかにも本当らしく効果的に

オ、「ただの紙」を見ってしまう素朴な目だけではない

1. 断定 2. 推量 3. 限定 4. 意志 5. 婉曲

問四 傍線A「たとえば紙幣を、ただの紙ではないか」といつてみても「現実」をとらえたことにはならないだろう。」について、筆者はただの紙だといったら何をもちて現実をとらえたことにはならないというのか。端的に示す部分を五文字以内でそのまま抜き出して答えなさい。

問五 傍線B「現実」は、感覚を鋭くさせているという程度のアンテナでは一向にとらえられない」について、筆者は「現実」をとらえるにはどのようなことが必要だというのか。該当する部分を「二十五字以内でそのまま抜き出して答えなさい」。

問六 傍線C「主婦の口にする終末観」について、筆者は主婦が終末観を口にするのはなぜだというのか。具体的に説明せよ。

問七 傍線D「もう一度われわれは観念の力を真面目に見直すべきではないのか、というような反省があるのがある。」について、筆者は結局どのようにすればよいというのか。該当する部分を「〇文字以内でそのまま抜き出して答えなさい」。

問二 次の文章を読んで、後の設問(問一～問七)に答えなさい。解答はすべて解答欄に記入しなさい。

最近、ワタシは人生をかなり無駄に過ごしているという自覚がある。

「人生に無駄は必要だ」

と温かい言葉をかけてくれるおかたもいらっしやるだろうが、こればかりは、自分でもかなり空しい。

その無駄とは、『ゲーム』である。

ゲームといっても、なんとかファンタジーとか、なんとかなとか(名前さえも知らない)といった、テレビの前で、バカボンに出てくるおまわりさんの目の形をした小さい機械(これも今ではカタチを変えたか)を手に、ボタンとかレバーとかをキコキコやるようなたいそうなものではない。ワタシが今、大いに人生を無駄にしていると感じる瞬間は、携帯電話のオセロと、パソコンに付いているスパイダーソリティアで多大な時間を消耗したときである。

そもそもワタシはゲームが苦手である。そしてもちろん弱い。七並べに始まって、大貧民、ポーカー。それ以上のゲームはルール理解不可能。ちよつとポーカーもアプないかも。とにかく、作戦を練らなければならぬゲームは、作戦を練らないという作戦でいつも玉砕する。一手、手、あるいはもつと先の手まで考え戦うゲームは、もう、苦手というか、嫌いというか、なんだかむかつくレベルである。だいたいワタシには先を考える、という才能がないのである(人生も)。もう、ただ、勘、勘一筋、ま、筋が通るほどでもないが。

ゲームが苦手なのになぜ、そんなもので人生の貴重な時間を無駄にしているのか。それは、つい出来ゴコロの、お試し気分。ちよつとした時間つぶし。たとえば、こういった原稿を書く前の頭のウォーミングアップのために、ちよつとだけスパイダーソリティアやちよつと、とか、お風呂にお湯が溜まるまで、携帯のオセロやってみよう、とか、その程度の出来ゴコロである。しかし、そこがまんまとゲームの魔力に引つかまれるところなのだ。ゲームに勝つための作戦があるわけではないが、それなりに自分では勝つことを目標に取り組むのに、これがまた必ず負ける。そうすると、やはり悔しいのがニンゲンの心理。じゃあ、あと一回だけ、と再び挑戦すると、また負ける。そして、本当にこれが最後!とスタートすると、三回目も負ける(ゲームは三回まで、と決めている!)。負けて終わるゲームはかなりのストレスになる。これから原稿を書くための頭の体操のつもりが、ただの眼精疲労に終わり、湯船に溜まったお湯は、適温に保つための燃料を消耗しながら延々と待機しているわけだ。もったいない!

ときどき破れかぶれになり、選かれたように勝つまでやり続けてしまうこともある。たまに一回目で勝つたりすると、うれしい、というよりなんとなく物足りなく。

「そんなわけがない。こんなに簡単に勝てるなんておかしい」

と、再びゲームを始めているのである。気がつく、パソコンや携帯に首つ引きで、一時間も過ぎていて、この場合は、勝つても負けてもイヤな疲労と空しさが残る。そんなときは、本当に自分が嫌になる。何のために今まで生きてきたのか!と申し訳ない気持ちでいつぱいになるのである。

「そんなにゲームがやりたいなら、ゲームの国にでも住んじゃいなさい!」

と、どこからともなく、ワタシを責める声が聞こえる。しかし、そんな気分も忘れた頃に、再び、

「ちょっとだけ、ね。三回だけ」

とゲームのスタートボタンを押してしまうのだ。

世の中から、ゲームなんてなくなっちゃえばいいのーっ！ 単純なワタシは、短絡的にそんな風に思ってしまう。なぜゲームが存在するのか？ 大昔からいろいろあるゲームがあったらうだから、ゲームをやるというのには、ニンゲンの本能なのか？ きっと、古代のニンゲンも目の前に棒が一本あって、あまりに暇だったら、その棒を使って何かちょっとしたゲームを考えることであろう。ああっ！ やはり本能！ そして、恐るべし暇！ 他にやることあんたらがあっ！

実際、携帯のオセロの広場（勝手にワタシが命名）は、暇人であふれている。携帯のオセロは、全国の『オセロやりたい登録者』とアトランダムで対戦できるのだが、携帯が検索をして、いよいよ対戦相手が選ばれると、その人の今までの対戦成績というのが表示される。その成績表を見るたびに、「うっわ〜。暇だよこのヒト」

とシビれる。その成績表は『892勝917敗』とか『1284勝792敗』とか、<sup>④</sup>度肝を抜くゲームやりまく回数なのである。まあ、この回数をひと月やそこらで成し遂げたわけではないだろうけれど、それにしてもすごい数ではないか。そして、ワタシの成績表は『15勝43敗』。ぎゃーっ。五十八回しかやってないーっ！ いや、いつのまにか五十八回もやっているーっ！ 他にやることあんたらがあっ！

しかし、世の中には、新しいゲームが発売されるたびに並んで買ったり、夜を徹してゲームに興じたりするヒトがたくさんいるらしい。すごい。すごい度胸と体力である。携帯のオセロを二千七十六回やるヒト。すごい。ひとりで。無言で。

ワタシは小心モノなので、ゲームで時間を消費すると、ものすごい罪悪感なのです。本当に。もう、<sup>⑤</sup>懺悔の世界なのです。ゲームなんて大嫌い。……本当は好きなのかなあ。ああ、神様。

（小林聡美『ワタシは最高にツイている』による）

問一 傍線(a)「消耗」、(b)「玉砕」、(c)「憑」、(d)「度肝」、(e)「懺悔」の読みをひらがなで書きなさい。

問二 傍線A「人生に無駄は必要だ」について、筆者は人生に無駄（ゲームをやること）は必要ということをどのようにとらえているか。簡潔に説明しなさい。

問三 傍線B「ゲームが苦手なのになぜ、そんなもので人生の貴重な時間を無駄にしているのか。」について、筆者がゲームが苦手なのになぜやってしまうと思っっているのか。該当する部分を七文字以内でそのまま抜き出して答えなさい。

問四 傍線C「たまに一回目で勝ったりすると、うれしい、というよりなんとなく物足りなく」について、筆者は一回目で勝ったのに、どうして物足りないというのか。簡潔に説明しなさい。

問五 傍線D「何のために今まで生きてきたのか！ と申し訳ない気持ちでいっぱいになるのである。」について、筆者は誰（何）に対して申し訳ないというのか。次の中から最も適当なものを二つ選び、番号で答えなさい。

1. 恩師
2. 両親
3. 神様
4. 友人
5. 自分

問六 傍線E「ちょっとだけ。ね。三回だけ」とゲームのスタートボタンを押してしまうのだ。」について、筆者はこのような行動を何が原因だと考えているのか。該当する部分を八文字以内でそのまま抜き出して答えなさい。

問七 傍線F「五十八回しかやってないーっ！ いや、いつのまにか五十八回もやっているーっ！」について、筆者の心の中にどのような気持ちが生まれているのか。それを端的にあらわしている部分をそのまま抜き出して答えなさい。

三 次の文章の〔A〕～〔J〕に入る作品名を後の語群の中から一つずつ選び、番号で答えなさい。

明治十八年から二十年の約三年間坪内逍遙の活動は大変活発であった。有名な文学評論〔A〕で写実主義を理論づけ、同時に小説〔B〕にその理論を応用したのであり、その結果一気に世評が高まった。そして、二葉亭四迷が逍遙宅を訪れ逍遙の勧めで評論〔C〕や小説〔D〕を発表したのである。また擬古典主義の小説〔E〕の尾崎紅葉や小説〔F〕の樋口一葉などが活躍した。

明治二十年代になると、小説〔G〕の森鷗外や小説〔H〕の夏目漱石が登場し、高踏派・余裕派とよばれたのである。この時期、浪漫主義として、北村透谷は評論〔I〕を徳富蘆花は小説〔J〕を発表したのである。

〔語群〕

1. 三四郎
2. たけくらべ
3. 小説総論
4. 不如帰
5. 当世書生気質
6. 内部生命論
7. 蒲団
8. 浮雲
9. 或る女
10. 小説神髓
11. 武蔵野
12. あめりか物語
13. 舞姫
14. 刺青
15. 金色夜叉

## 解答例

一

問一	(a)	伝播
問二	I	4
問三	ア	5
問四	紙幣の価値	紙幣の価値
問五	感知的な時代分析(など)	感知的な時代分析(など)
問六	石油が不足しはじめると、関連する商品が店から消えてしまうから。	石油が不足しはじめると、関連する商品が店から消えてしまうから。
問七	観念的な時代分析(など)	観念的な時代分析(など)

二

問一	(a) しようもう (b) ぎよくさい (c) つ (d) どぎも (e) さんげ
問二	ちよつとした頭の体操や時間つぶしのため
問三	ゲームの魔力
問四	これまで何度やっても簡単には勝てなかつたので、苦勞して勝つたという達成感がないから。
問五	5
問六	ニンゲンの本能
問七	罪悪感

三

10	A
5	B
3	C
8	D
15	E
2	F
13	G
1	H
6	I
4	J